夕刊
磐城新聞
二月二十二日發行
定價一ケ月（郵稅共）[illegible]五錢
廣告料 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢 五號十二字詰一行一圓（場所指定五割増）
編輯印刷兼發行人 松本 哲
福島縣石城郡平町一町目十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
[illegible]
（日曜祭日翌日休刊）

春の隨筆 四

六條篤

私の內にはこんな奇妙な渡佛のプランがある『一圓で洋行する』話のやうな話ではある。此所に私の友人が百人ゐる。その百人の友はめいめい一圓づゝ位容易く出してくれる知人を三拾人位はもつてゐるだらう。とすれば

1圓×30×100＝3000圓

金三千圓也が即座に出來る。私の百人の友が二百人になれば六千圓、今の爲替關係ではまだ少し心細いが私の財產も所分すればいくらかにはなるだらう

これは虹を這ひのぼる日を夢見る蝸牛の夢であらうかまさに亡びようとする舊い家の殼を背負ひ乍ら空しく田舍に引き籠つてゐる自分の。でも自分は未だ三十にはならないのだから夢に終はる夢とは云ひ切れない。早やかうした春晝夢が幾度日か私の心の中に芽を吹く

昨夜　風呂に入り乍ら明日は舊正である事を思つてゐると次のやうな古い童謠が口すさまれた。勿論之を完全に思ひ起す迄には相當かゝつたが、自分は早速小さな從妹に敎へたが從妹はたゞ微笑してゐる丈でそうぴつたり來た樣な顔はしない。私達が子供の折母の膝で親しく聞かされたこんな童謠は田舍でさへ子供の世界から遠くなつてゐる

正月來たら何嬉し
お雪見たよな飯食べて
割木みたよな魚そへて
碁石見たよな餠食ふて
炬燵へあたつてねんねこしよ

といふのであるが私自体も再びこんな童謠を思ひ起す事があるかどうかわからないのを思つて幸ひ此所に書きつけておく事にする

今年の冬は溫い　百姓達は伸びすぎる麥の芽を畏れてゐる

（一九三五・二・四）

忘年句會

川風になびく焚火のけふりかな　何鳴
三十三才ちらと落ち來し水邊かな
藁しべのひら／＼うつる焚火かな
空堀の中に徑あり三十三才
三十三才薪割る人に馴れて鳴く
風上に立ちはたかりし焚火かな
枯芝の庭ひろ／＼と歩を移つす

2月23日

△織田信長安土城に移る（天正四）△平家富士川水禽の音に驚き走る（治承四）△衆議院一億圓の軍事費支出を可決す（明治二八）△ベバギ

その日

—皇儲レボルト殿下の御即位式行はる（昭和九）

○

くもり日——。早春の空のうすぐもりは、仄明るくて、なつかしいぢやないか。

講談

戸隱奇譚

山の怪秘

丸山寛雄作
眞木浪書

（116）盜人蛇（四）

その夜ふけ丑滿に近い眞夜中どき、この侘しい旅籠の一間に無氣味な出來事が襲つた。但し亡靈や妖怪の類ではない

瀧之丞は荒々しい寢息を吐いて漸く眠りに就いた。お豊も相當に深い眠りに入つてゐた

音も何もない。強いて耳をすますならば、枕許に立つ破れ行燈の丁字皿が殘り少なになつた油を吸ふ音が夜鳴りのやうに聞ねるだけである。また、一匹のげじ／＼虫が天井から鴨居を傳つて下りて來て障子のさんを渡つてゐる音が、ガサガサとしてゐる。いづれも音といふ音ではない

そのとき、廊下に面した汚ない破れ襖の裾でメリメリといふ紙を破る氣配が起つた

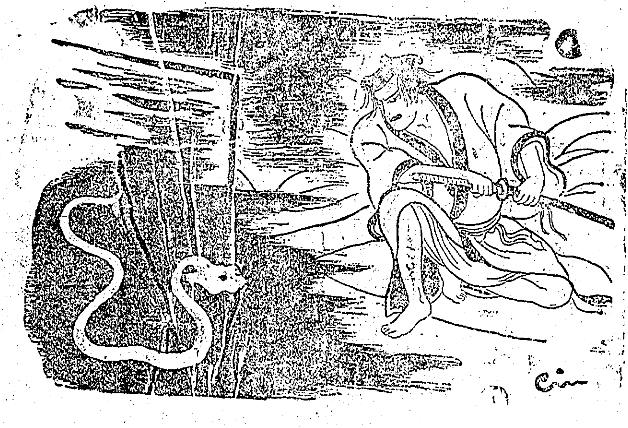
盜賊か、風か、鼠か

あらず、見る見る鼠の惡戯のやうな音をさせて忍び込んで來たのは蛇の頭ではないか。小さいが、らんらんたる青光りした眼を輝かし、糸のやうな赤い舌を出たり入たりさせてゐる。つゞいて細長い胴体が、する／＼と手繰り出て來た。頭の方は暫くどの方向へ進まうかと迷つてゐる風情に見えたが、やがて瀧之丞の枕許へ一寸二寸と近寄つてくる

疊を這る音さへもしない

何んといふ無氣味であらう如何に荒廢した旅の宿といつても先づこんな虫の出現は類がない

蛇の頭は暫く行燈の灯影を恐れて、鎌首をもたげたまゝ、ぢつと瀧之丞の寢顏を眺めてゐるではないか、その無氣味な胴廻りは、たつぷり四五寸、丈は六尺に近く見えた。暫く鎌首を休めてゐたが意を決したこの長虫、よく肥つた胴体をうねらせながら、瀧之丞の枕上蒲團の下へ首を突込んで來た



見て[illegible]間に、小さな紫の包みを鋭く裂げた口にくはへ、ずるずるとはひ出て來る。口でくはへ込んではゐるが、相當に持重りのする品物らしい

この氣配が悟られたのであらう、お豊の蒲團が突然に躍つてはねた

「瀧之丞樣——」

こん身の力を振り絞つた叫び聲だ

「えッ、なにッ」

瀧之丞は耳へ錐を刺された思ひで、バネ仕掛のやうに飛び起きた。寢卷の前つまが肌けて褌の片が、ぶら下つてゐる

瞬間、瀧之丞はお豊に敎へられるまでもなく、足許の疊に大きくのた打つてゐる蛇の動きを見た。寢床の傍に挿んであつた一刀手にとるも無しと、パッと鞘を拂つたとき、蛇はその氣配を感づいてか、ふすまの穴へ首を突込むなり飛鳥の如く外へ脱け出てしまつた

バラリ……

瀧之丞は、ふすまを開いて同じく廊下に出た

そこは一面の闇。どの方向へ逃げたかな

瀧之丞は腰を沈めて氣配を窺つたとき、曲者の蛇はそば近くの段梯子を下りて階下の板敷へ落ちたやうな音があつた

「瀧之丞樣もうあとは追はないで」

お豊は恐ろしさのあまり瀧之丞の腰へしがみついた

しかし瀧之丞はこの怪奇な惡戯をする曲者を見のがすわけに行かない。お豊の手を振り切つてタタヽヽと階段を馳け下りた、あまり慌てゝゐるので二三段一度にすぐり落ちた

お豊は部屋に戻つて蛇がくわへてゐた包みを取上げて見れば、それは瀧之丞が肌身離さず持つてゐる戸隱山顯光寺の黃金佛であつた

瀧之丞の馳け下りた階下の廊下は暗闇だつた。しかし、はるか向ふの隅に乏しい光りのが一つ灯つてゐた便所らしい。その仄かな明る[illegible]たよりに向ふを見たとき、曲者の蛇が角を折れて逃げるのを見とめた

磐女校友會誌 かをりから

心の故鄕

二年　福羽靜江

ぎつちらこ／＼と金のお船に乘せられて神の住居の天國から見知らぬ下界へと降り立つたのは、十五年前の花咲く春の四月であつた神の使として下界に降る時の習慣に、私も矢張り神の心を小さな胸に分けていただいてゐました。神の心——即ち童心、汚れといふものを全く知らない潔い心、を抱いて現世に降り立つて參りました

それから私は一人の人間として、父母、兄弟、社會の中に今日まで育てていたゞきました。然し私は十五年の間に何をし、どれだけの進歩を爲し遂げたでせう先づ童心を省みました。全く現世の何物をも知らずに生れ出た柔い心には少しばかりかじり知つた社會の一頁が印せられてゐました。この世の中に流れてゐる清らかさも、汚れた空氣も、學問的なことも一緒になつて—。さうしたものの積重つてゆく半面に、私はより以上の大事を發見しなければなりませんでした。それは、綺麗な心が何時か知らない間に哀れにも蝕まれてゐることでした。お友達同志のつまらない爭に不要なものをどん／＼取入れて、大切なものを失つてゐる事に氣が付かずに居たのでした。幼い時には何の差別も無しに、皆仲良く遊んだものでした。犬や猫や兎さんや小鳥達の可愛いゝ動物とも仲良しだつたものです。無邪氣に樂しく過した姿を忘れて、眞似なくともよいことを知らずに眞似てゐました。幼い日の故鄕の心を離れることの如何に淋しいのであるかをしみ／＼と感じさせられました。母の乳房にすがつて安らかな寢息を立てゝゐた時代を忘れて、利己的な心に走つて行つたなら、人の子の心の荒むのも無理はないことでせう。幼兒の神のまゝなる尊い姿を思ひ起して、私達の心に反省の餘裕を與へたなら、もつと詩的な、うるほひの有る生活が得られるのではないでせうか。丁度生れ故鄕を胸に描いて靜寂の氣持にかへるやうに……

○—○—○
○—○—○

廣告

許可大藏省
磐城無盡
斷然群ヲ拔ク
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
共存共榮
實堅富誠
平町電話三七八番

天下一品マヅイ
素人料理
おでん
榮ちやん
花ノ里 新田町

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

磐城共濟病院（福島縣平町 電話六四一番）
內科 院長 醫學博士 石山謙郎 電話六四一番
小兒科 部長 岩手醫學士 平賀一忠
產婦人科 副院長 醫學博士 五十嵐雄二 電話三七〇番
外科 耳鼻咽喉科 部長 醫學士 大町久藏
皮膚泌尿器病科 花柳病科 部長 醫學士 前澤正 電話二七二番
X光線科 物療科 醫學博士 石山謙郎 技手 石山彦
衛生試驗所 獸醫 高後利雄
藥局 藥局長 藥劑師 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄
◎毎日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始（毎夜午後十時迄）
◎病室完備 入院隨意

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

平町田町
高久病院（電話五三二番）
內科 小兒科 花柳病科 外科 耳鼻咽喉科 レントゲン科
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 濟
藥劑士 佐竹 [illegible]

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹
里。柿羊羹
海。のり羊羹
各一本金十錢
右美麗三本箱入特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 小川郷驛前
平屋賣店

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

外科專門
X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」（看護婦及び見習看護婦募集）
齒科 口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
內郷村高坂 磐炭病院前

機關銃印自轉車
三大特徵
新案特許 全廻轉部
1 全鋼鐵壓搾
2 防塵水裝置
3 自動注油式
使用年月他車の數倍 特に輕快なのは本車の誇りです
機關銃印普及車 四十九圓七十錢
指定販賣所 フタバ商會
平・新川町・橋際

夜間診療
胃腸 性病
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

毎度有難うございます
レストラント
平商舗

鑛業株賣出
第一鑛業株（全額拂込）五分配當（利廻り年一割一分歩）
相場二拾壹圓十錢位
公債買入レマス。
御報次第店員參上詳細御說明致シマス。
公社債株式現物賣買
角治株式店
福島縣平町田町五四
電話七三番

二旬連續の發送減は 果して一時的現象か

常磐炭界に描く謎の波紋

統計から眺めた黑ダイヤ景氣

去る一日以降十日迄の常磐炭田元發送高の減少したのは舊正三日間の休業が介在した爲で、遂に將來の發展を卜知するの悲觀材料ならぬ當面錯綜の如くであるも、稍々正常に復歸したと觀るべき十一日以降二十日迄の分も之亦僅か乍ら減少を示し二旬連續の赤字は全く近來に無い現象として一抹の寂寥を漂はせてゐる、即ち過ぐる中旬間の發送高は營業用三、八五〇車四六、八二一瓲、省用一、七一一車二〇、五二九瓲合計五、五六一車六七、三五〇瓲で、而も前年は當旬中に舊正月休みがあつたに拘らず之に比し尙ほ營業用二一車一九三瓲、省用二一車一、六一〇瓲、合計一九車二、二〇三瓲の減を示し、上中旬を通算すると實に一、〇三九車一五、六一〇瓲と云ふ近く全く其の類例無き減少を露呈するに至つた

平署[illegible]濟生資金 既に責任額突破

豫想以上の好成績

平署の濟生會寄金は今二十二日現在既に責任額を遥かに突破した一萬六千八百圓で一萬七千四百圓には上るものと見られる、內譯の主なるものの左の如し

二、七〇〇圓磐炭 一、九〇〇入山 一、五〇〇小田炭礦 一、四〇〇古河 一、〇〇〇諸橋久太郎、磐崎戶部光衛 五〇〇湯本品川白煉瓦 三五〇內郷壽炭礦、五十嵐炭礦 各三〇〇平町山崎清三、百瀬易與、片倉製糸好間荻原傳八 各二〇〇平町磐城無盡會社、山田文一、內鄉杉山今朝吉、加藤丈夫、馬目太平治、上小川草野正壽、赤井日本窯業株式會社、福島炭礦

高値に賣氣を煽り 地方米大量出荷

昨日の共販一錢安

昨二十一日郡農倉穀物共販聯合會の俵米共販は前回の最高十一圓四十二錢に賣氣を煽つたものかその出荷

平―四等四九 五等一四七 等外一四二(他に双葉米 五等 一二〇 同 八〇)錦―五等一七 等外二六 草野農倉―四等一二 五等一三 等外二三 同信組―四等二 五等六四 等外三七 鹿島―四等一〇 五等二四 等外三六 大野―四等一一 五等一三八 等外二七 平窪―四等四 五等三九 等外一七 飯野―四等五 五等三六 等外三八 神谷―四等五 五等八〇 等外一〇 渡邊―四等五 五等八 等外二〇 小川―四等三三 五等三四 等外七

總計實に千三百十九俵といふ大量出荷であつたが目下手持薄の商人亦買氣旺んで

平窪―十一圓四一錢 鹿島―三一錢 飯野―三〇錢 平―二九錢 神谷―二七錢 大野―二五錢 草野農倉―二四錢 小川―二三錢 草野信組―二〇錢 渡邊―一九錢 錦―一五錢 双葉米―二六錢、二五錢

といふ前回に比し僅か一錢安といふ高値で如實に需給の不圓滑を語つて居る

郡下將棋大會 既報―平將棋互樂會主催第二回郡下將棋大會は明後二十四日(日)午前十時より平町五丁目吉田屋樓上に開催されるが目下の申込み佐藤初段始め磐炭、入山、湯本、植田、小名濱、四倉等倶樂部員約五十名あり盛況を豫想され同好者の登場を歡迎すると

求職申込百餘名

卒業期には倍數に上らん

大多忙の紹介所

卒業季を据えた平職業紹介所の現在受付求職兒童數は平第二、第三、內郷高坂、好間、赤井第二の五校約百名(內女三十名)で愈々切迫すれば二百名位に上るであらうと、男生希望者中東京行き志望者の二十餘名は軍需インフレ景氣に刺戟され何れも鐵工方面を望んでゐるが、同所では此の軍需景氣衰退後の職工過剩を見越し少からず憂慮してゐる

保健組合創設 平署管內百三十一軒の料理業者幹部の統制を圖る同業者幹部會は既報の如く開いた結果名稱を三業保健聯合組合と決定、今二十二日午後一時から規約改正其他の打合會を開いた

被保險者表彰。。。。 縣警察部では來る二十五日午後一時から平署會議室で同署管內健康保險組合被保險者中最近五ケ年間に亙り健康を保持した者に對し表彰式を擧行する

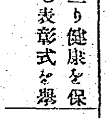
職工見習大量求人 東京市北多摩郡神代村所在東京日本紡布株式會社から比較的好待遇の職工見習百五十餘名の大量求人があつたので同所では乘氣になり各方面に周知した入社資格は今年三月高卒年令十五、六才、三ケ月乃至六ケ月見習期間中に基布工製綿工、加工、機械修理工で日給五十錢位、半年毎に五錢乃至十錢昇給、凶地救濟の目的から東北地方、北海道より主として採用するとあり、志望者は今月末迄同所に申込まれたいと

小田健保宣傳。。。 好間村小田炭礦では健康保險思想普及のため二十五日午後六時から同礦倶樂部で講演と映畫の夕を催す

渡邊助役寄附。。。。 草野村助役渡邊寬彌(五〇)氏は公共のため常に寧日なしの活動家であるが、此程同村靑年團にその更生資料として五葉松苗木數千本を購入寄附して各個に三本宛栽植せしめた、右は三年後には相當の材料として東京方面にも賣却し活動資金を得させる計劃との事である

好間村會 今二十二日午前十時から開き九年度追加豫算を原案通り可決した

特高課長視察。。。。 本縣新特高課長松本傳藏氏は[illegible]巡視のため二十三日來部する



投檜

投書歡迎

市制調查費二千圓。。。。。

◇大平町の新豫算三十四萬なにがしが果して多いか少いか、其の編成技術の巧拙などは素より吾々門外漢には解らない、所詮止むに止まれぬ最少限度の數字である事を信ずるが柔順な町民の態度であらう

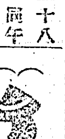
◇雖然最初から どの位計上するものか?と注意して居つた例の市制調查費に二千圓を喰つた事はお勝手元の樂で無い平町の現況から觀て極めて概念的ではあがる一寸多い樣に思はれぬでも無い。四十人の委員一人當りが五十兩だ

◇尤も仕事をするのに資本が要る道理、此際この二千圓を一人で負擔する樣な顔をして多いの少いのと云ふでは無いが、心配なのは二千圓の費用を投じて得る處幾らあるかの問題だ

◇二千圓費して二千圓儲ければお互手間は有り物としてトントン、三千圓捻出すると千圓の純益だが、其は望まぬとして損丈けはして貰ひ度く無いもんだ、實際勘定を持たせられる町民が溜らないからな(○町日和潮鹽生)

若林所長講演。。。。 滿鐵商業實習所若林所長は今二十八日午前十時より平商で滿洲事情に關する講演を行つた

久田媼全癒。。。 草野村山田克信氏母堂久田フジ(七九)媼は既報の如く從來屢々雜巾を學校に寄贈し五千餘校長以下職員兒童より感謝され昨年十一月の明治節の佳辰を卜し感謝狀を贈られたが、その後媼は風邪の氣味から病床に就いたのでこれを聞いた兒童は自發的に同村鎭守愛宕花園神社に平癒の祈願をこめ最近愈々平常に復したので[illegible]學校の運動會の高齡者競走には再びその元氣な姿を見ることが出來ると村民一同喜んでゐると



罌罪黑白

◇谷口の秀勇元老、先達迄は『パッパ』なんて云はれても平氣だつたが、近頃では其れが如何にも面白くないらしくツンと澄まし込んでしまふ◇その代り『オイ若いの、一盃行かうぜ』なんて水を向けると、頰ぢう皺だらけにしてすつかり嬉しがり『アラ、あたし恥づかしいワ』なんてハンケチをかんだりする◇どうも樣子が變なので調べて見ると、近頃當八十以上の先輩が出來て『平で一番年寄つた爺者』でなくなつたんださうな『それでは今度淺い川を踊らせやうつて、其れも餘んまりグロ過ぎるがね』◇平町の美形連中には均整のとれた堂々たる体躯の所有者も可なりある樣で、海の湯の流しあたりにズラリ非常時氣分を見せて吳れるなんかすこぶる愉快ではある◇林家の[illegible]なんかも其の一人で取り敢えず野戰砲兵と云つた處、あれで居て活動の町廻りが來ると廣告撒きを追つかけてはシコタマ溜めて喜んで居る、とはうそか、まことか保證の限りに非ずだ。

○……○……○

誘拐されて平町へ

酌婦をして居るらしい

―と前抱主から搜索願

千葉縣銚子市田中町一四七八岡藏長女林こと(三三)は昨年二月東京市王子町料理店稻垣平藏方酌婦に住込み中同年六月中旬何者かに誘拐されたが現在平町で酌婦をして居る事が判明したので今二十二日抱主から平署に搜索願

上小川生れの五犯男

他縣で生恥を曝らす

盜運描く復た檢擧さる

上小川村大字上小川當時住所不定無職竊盜前科五犯國井三郎(三〇)は昨年十一月三日三年半の刑を終へて平刑務所を出所後東京、福島、栃木、茨城各縣下を流浪して竊盜を働き去る十七日茨城縣稻敷郡阿見村居住霞空隊勤務一等兵曹豐福勝則方外一軒に忍び入り洋服、ワイシャツ、電氣アイロン等を、更に十九日新治郡東村戶頭直藏、草間傳七、土田定助方から自轉車その他衣類等を竊取し二十日午後四時頃稻敷郡朝日村字上本鄉農本鄉とく(四〇)方へ空巢狙ひに忍び込んだのを附近の者が發見大騷ぎとなり、逃げ場を失つた三郎は同家の緣の下にもぐり込んだが大勢に包圍され竹棒で突き廻されて堪らず飛び出したところを同所組谷孫七(四四)さんが逮捕し駈けつけた駐在所の大森巡查に引渡し土浦署に突き出された

竊盜に一年半。。。 住所不定山形縣生れ無職佐藤惣次郎(四二)に係る竊盜事件は今二十二日午前十時より平區で香西判事係り、蒲田檢事關與公判開廷、求刑通り懲役二年六月を即決言渡された

過失運公に罰金。。。。。 平町立町一九自動車運轉手大里誠(二六)は昨年十月同町某自動車商會に雇はれ中同六日午前十時過頃湯本町地內磐城國道を貸切自動車で疾走中前方より來るトラックを避けんとして操舵を誤り道路左側を自轉車で進行中の內鄉村行商立石米吉の背部に追突、加療十日の傷害を與へ此程平區より略式で罰金三十圓を言渡された

新田町道路のお化粧

花を前に鋪裝の手入れ

出來て間も無い新田町の鋪裝が崩れた、根がお化粧でもつて居る之の町のお白粉剝げは世にも皮肉の極みである、艶やかな塗下駄やフエルトの草履で撫でられる樣に歩かれてすら之れだとせば、重量積載のトラックや荷馬車の往き交ひ櫛の齒を挽くが如き本町邊であつたら今迄すらもたなかつたであらう、今度はどんな具合に出來る事やら、花曇りの樣なけふのそらあひを、手間ひまに介意はぬ樣な長閑な掛け聲に人夫が押す地均しのローラーはゴロリ〳〵轉がつて居る

酒の家女將毒を仰ぐ

手當効無く今曉絕命

原因家庭の不和

平町田町丸新デパート內酒の家事椎名秀雄內妻吉田サツキ(三二)は昨二十一日深夜自宅で猫イラズを嚥下今二十二日早朝遂に絕命した、家庭の不和から

鄉土の史的時事解說

白水阿彌陀堂の第二回修理(二)

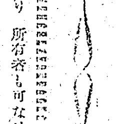
本堂宇の特別保護建造物並に內境安置五佛像國寶各指定に就て(哭)

勿來生

此の尼たくひなき善人にて、壽も百二十歲までながらへ給ひ、子息五人へ一郡づゝをわけて富榮へくらし給ひぬ。されども源氏のおとろへ、平家のさかんなる世を、心うき事になげきおぼしめして賴朝へたへず御おとづれなどあり、分限の初尾とて土產なんとたくられけり(中略)伊豆日記曰養安元年(天養か久安の誤りか)十二月朔日(中略)今日より精進、潔齋の所に行方より、浮木(鍋田三善の磐城產物略記に據ると、鮫の別種とあり)鮭鹽引送り來る、德尼、今年百餘歲、自筆壽量品、兼て所望也、尤よき守となるべし

或記曰、永萬元年(一八二五)九月十日(月脫か)あかゝりける夜、神沼の亭にて、伏見の冠者廣綱住吉の小大夫昌政參り、雜餉奉て京の一種物、駿河の手越酒なんど勸めければ、佐殿(賴朝)も興に入給ひ、此比時陰といふ樂人も下りあひて、今宵を召されける等の笛吹せられけるに、還城樂ふきすまし、天晴此道の冥加に叶ひたる夜かな、一兩年田舍に吟ひしたゝみたる音の出たるときは、運命のつたなきにこそと淚のみ包みあへず候ひし此日出度き御遊にひかれ管の音調すゝます事よと申す、佐殿御こゝろよふ不思儀を得たるものかな汝にふかせたる管こそは八幡太郞殿の陳奧椎葉五郞(岩城系圖では當時本郡の領主を立てず)が家に傳置き給ふ波立といふ笙なり、今年(永萬元年)岩城三箱山(今の湯の岳の古名)の麓白水寺(後ちの願城寺を汎唱するか夫れとも斯く命名する寺が在つたか不詳)の寶藏より出たりとて、德尼の送り得させられたり、感應はまさしうあるべき物なるを、時陰が吹すますことなみ〳〵ならずと仰せける、時陰悅びの餘りに、わなゝ〳〵ふるひて、八幡(義家)殿より御傳をうけつぎたる身の波立の音をふき出す有がたさよとある。彼の尼を記すこと誠に殊勝、彷彿として其等の次第が宛ら事實の樣に想起するではないか

埃の巷 平第一、同第二校へ今二十二日早曉二時より四時頃の間に怪漢忍入り各教室を物色した形跡あるを今朝發見調査したが幸ひ被害はないらしい、なほ第二校草野、渡邊、橋本、古市の少壯訓導は給料日當夜ではあり從來の犯跡から見て適切り侵入するものと目星を付け建網式に怪盜を生取せんと忍び口さへ擄へ待ち構へてゐたが侵入と共に功名心から遂い沈著を欠き無念逃走されてしまひ一同自團駄踏んで口惜しがつてゐるぞ



舊一月二十日
新二月二十三日
土曜 庚午 友引 定 胃宿

諸判斷旅館
東京市本鄉區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神宮館

△二白の人 一方に利あるも他方は損し易し衛生も注意△二黑の人 共同事業に手を出さば失を招く△三碧の人 初一念の達する吉日氣緩みせぬ事△四綠の人 投機事業に手を出さば根底より覆へさる△五黃の人 自制して放縱に流れ[illegible]過誤なし△六白の人 如く見へて秩序亂れ[illegible]七赤の人 念には念を事より處理し行くべし[illegible]根氣續けば成功すれ[illegible]れば敗る△九紫の人[illegible]か捨て正に向つて進[illegible]

二十三日(小名濱潮汐)
日出 六、一六 月出 [illegible]
日沒 五、二六 月沒 [illegible]
滿潮 前六、二〇 後七、〇五
干潮 [illegible]

(優等入選)
白馬の雪
石城酒造組合主催 [illegible]酒會
辰の口本店
平窪村(電話二八五番)
販賣 平町三丁目(電話[illegible])

外科
泌尿器科(腎臟 膀胱 尿道)
花柳病科
皮膚科
白土外科醫院
(入院隨意)
(看護婦募集)
平町 鎌田 電話二七九

貸切の御用命は
「尼子タクシー」へ
六四〇番
御願致します
長距離は御相談に應じます

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七番)
安齊外科醫院

洋服は
高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話二八六番